

自己評価報告書

平成23年5月15日現在

機関番号：17401
研究種目：基盤研究（S）
研究期間：2008～2012
課題番号：20226012
研究課題名（和文） ギリシア古代都市メッセネおよびフィガリアの建築と都市環境に関する学際的研究
研究課題名（英文） Interdisciplinary Research on Architecture and Urban Environment of Ancient Greek Cities of Messene and Phigalia
研究代表者
伊藤重剛（ITO JUKO）
熊本大学・大学院自然科学研究科・教授
研究者番号：50159878

研究分野： 建築史，都市史，考古学，美術史

科研費の分科・細目：5304

キーワード：古代都市，ギリシア，フィガリア，メッセネ，劇場

1. 研究計画の概要

地中海に誕生したギリシア・ローマの西洋古代文明は近代文明の源流である。熊本大学の調査隊は、1993年以來18年間、古代都市メッセネで建築調査を行ってきた。

本研究ではメッセネとフィガリアの調査を通じて、古代の都市と建築の様相を明らかにすることである。具体的には、メッセネでは近年発掘された古代劇場の実測調査を行なう。特に舞台建物について、得られた資料に基づいて復元を行ない、文献研究とあわせ建築史的研究を行なう。

フィガリアはまだほとんど未発掘の都市遺跡なので、まず地形測量をして地形図を作成することから始める。特に都市全体を囲む城壁は、都市の基本施設として重要で、その位置と形状を実測する。さらに将来の発掘調査を見越して、地中探査を行なう。

調査はGPS、電気探査、レーザー探査など工学的機器を用いたり、あるいは建築部材については手測りによる実測調査であり、これをもとに得たデータによる実証的研究を行なう。したがって、記録の作成がまず基本的な作業となる。

2. 研究の進捗状況

1) メッセネ

ヘレニズム時代からローマ時代まで使用された劇場（図2）について、特に舞台建物を中心に実測調査を行なった。基本図面として建築遺構の平面図、立面図、断面図、また出土部材の図面作成を行なった。同様に、建築遺構及び出土部材の写真撮影と文章による記述を行なった。

これらの図面資料および得られた寸法データを分析し、舞台及び舞台背景建物の復元

を行なった。その結果、舞台背景建物は、コリント式、イオニア式、ロータス・アーカサス式の3つの様式で作られており、2階建てであったことが推測される。

座席については殆どが破壊されており残っておらず、バラバラになって出土した座席部材から、推定復元するほかないかと思われ、現在検討中である。

2) フィガリア

これまでほとんど調査されていない古代都市であるため、まず地形図作成から行なっている。市域は全長約4.5kmの城壁に囲まれており、半分以上はまだ地上に露出した形で残っている。その殆どを踏査して、地図上にその位置と形状を記録し、地図上に表した。また軍の測量部が発行している地形図を参照して、等高線を入れ、これまでに調査されている古代の泉や神殿の位置を、記入して地図を作成した。

南西側の城壁（図3）については、2010年夏に、その石積みの技法を解明するために、約80mに亘って写真測量を行なった。これによって、城壁の立面図を作成することができ、他の都市の城壁の石積み技法と比較研究することができる。

2010年夏には、将来の発掘調査のために古代都市のほぼ中心で、広場と推定される箇所、レーザー探査及び電気探査を行なった。その結果、地下約1.2mの深さに、おそらく古代の地表面らしい面を確認し、その面上に多くの石材らしい物体の反応を確認することができた。この結果は、将来発掘するときの地点を発掘すべきかについて、大きな示唆を与えるものとなった。

3. 現在までの達成度

研究の達成度については、やや遅れている。その理由は、フィガリアでは発掘調査が当初の目的であるが、発掘許可がギリシア文化省から降りておらず、地形測量、城壁の測量、発掘予定地の地中探査を行なっている現状で、達成度は60%である。メッセネでは、計画以上に進んでおり、100%の達成度である。したがってフィガリアとメッセネを合わせて、達成度は80%程度と思われる。

4. 今後の研究の推進方策

メッセネでは、劇場の未調査部分について、建築遺構の実測を行ない、また他の円形劇場の報告書を調べ、比較研究を行なう。

フィガリアの発掘許可については、アテネの日本大使館や東京のギリシア大使館を通じて、ギリシア文化省に対して発掘許可の取得をお願いしている。城壁を含む地形測量の継続、いくつか残る建築遺構については、実測調査による建築研究を行なう予定である。

5. 代表的な研究成果

1) 雑誌論文 (計59件)

1. 吉武隆一、伊藤重剛 他2名、『地中海古代都市の研究(133)メッセネにおける劇場調査報告2010(1) スカエナエ・フロンスの柱頭』日本建築学会九州支部研究報告50号3、2011年3月、pp. 637-640、査読無し
2. 岩田千穂、吉武隆一、伊藤重剛、他2名、『地中海古代都市の研究(134)メッセネにおける劇場調査報告2010(2)ローマ時代スケーネの復元試案』日本建築学会九州支部研究報告50号3、2011年3月、pp. 641-644、査読無し
3. Kazuya Nakano, Hirofumi Chikatsu, Camera-Variant Calibration and Sensor Modeling for Practical Photogrammetry in Archeological Sites, Remote Sensing, ISSN 2072-4292, pp. 554-569, 2011、査読有り
4. 伊藤重剛、林田義伸、『ギリシア古代都市メッセネにおけるメッセネ神殿の周柱の平面に関する研究』、日本建築学会計画系論文集、第638号、2009年、pp. 955-
5. 伊藤重剛、吉武隆一 『地中海古代都市の研究(127) フィガリアの城壁と建築遺構の一般調査2009』、日本建築学会九州支部研究報告第49号・3(計画系)、pp. 581-584
6. 吉武隆一、伊藤重剛、他3名、『地中海古代都市の研究(128)メッセネにおける劇場調査報告2009(1) 平面』、第49号・3(計画系)、pp. 585-588
7. 吉武隆一、伊藤重剛、他3名、『地中海古代都市の研究(129)メッセネにおける

劇場調査報告2009(2) スケーネ』日本建築学会九州支部研究報告

2) 学会発表 (計20件)

1. 勝又俊雄、吉武隆一、『メッセネ劇場の発見の切石軌道の解釈について試論』第17回ヘレニズム・イスラーム考古学研究、2010年12月、pp. 93-99、査読無し
2. 吉武隆一、勝又俊雄、『ギリシア古代都市メッセネにおける劇場の平面分析』第17回ヘレニズム・イスラーム考古学研究会、2010年12月、pp. 100-105、査読無し
3. 吉武隆一 『古代都市フィガリアの研究小史』、第16回ヘレニズム・イスラーム考古学研究、金沢
4. 伊藤重剛、他3名 「建築史研究における海外調査」、建築史学会大会、2010年4月、pp. 19-58
5. 尾原祐三、他3名、「地中レーダの熊本城石垣調査への適用」資源・素材学会九州支部例会、2009年5月、福岡
6. Yasuyoshi OKADA, Some new trends of proposals for the World Heritage: tentative nomination in Japan, 2008 ICOMOS Asia-Pacific Conference, 2008年6月10日

3) 学術図書 (系1件)

伊藤重剛、「伝統都市3 インフラ」(「古代都市街路」73-101を執筆)、東京大学出版会、2010

4) その他 (計5件)

1. シンポジウム報告書
伊藤重剛編 「メッセネ・フィガリア国際共同調査シンポジウム『ギリシア古代都市を彫る』」熊本大学ギリシア古代建築調査団、(2010年12月4日、京都市リサーチパーク・サイエンスホールにて開催)
2. 新聞
伊藤重剛、「盛衰語るギリシア建築 現地調査で遺構復元、美の原理探る」日本経済新聞 2010年10月29日
3. ホームページ
伊藤重剛編、
http://www.arch.kumamoto-u.ac.jp/itoj_lab/index.html (研究室ホームページ)
4. パンフレット
伊藤重剛編、「MESSENE」2010年3月31日作成
5. DVD
伊藤重剛編、「蘇る! ギリシア古代都市メッセネ—熊本大学伊藤研究室の挑戦」2010年3月31日作成